

(株)E.I.エンジニアリング

【本社】兵庫県神戸市中央区旭通2-10-18
TEL.078-222-8250(代) FAX.078-222-8258
【東京支社】東京都港区高輪2-14-17 グレイス高輪ビル8F
TEL.03-4530-3810 FAX.03-3441-7698
http://www.eie-e.com

対談

代表取締役社長

インタビュアー

小川 彰彦 × 梅田 淳

【フリーアナウンサー(元関西テレビ)】



INTERVIEW
TERUHIKO OGAWA × JUN UMEDA

地球温暖化対策に自主的に取り組める社会ネットワークづくりに貢献する会社



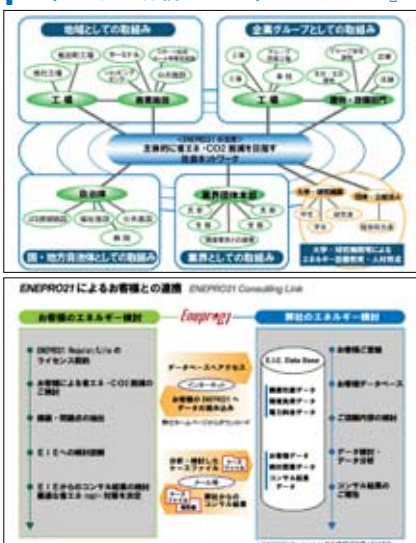
梅田 省エネや温暖化対策は今や国際的な課題です。エネルギー問題をコンサルティングやソフト開発で、総合的、システム的に解決することを目指しておられる御社ですが、「E.I.エンジニアリング」という社名も環境問題がクローズアップされる現代をシンボリックに捉えています。小川 「Energy Integration Engineering」の頭文字を元に、(Earth(地球))、(Environment(環境))の向上とそれを創り出す人の知恵 (Inelligence) を大切にする、Inovativeな企業を表現し、エネルギーを総合的に捉え評価できる会社を目指して社名としました。日本はオイルショックを製造工程の省エネと単体機器の効率化に技術の総力を挙げて切り抜きました。これにより製造業の省エネと単体機器の効率化は世界のトップクラスで、省エネ先進国と自負していると思います。しかしエネルギーシステムの運転方法や、利用されずに放置されているエネルギーの有効利用など総合的にエネルギーを見ると、まだまだ随所に効率的利用が可能です。今まで全体を正確に捉えてシミュレーションできるツールがなかったことにもよると考えられます。そ

こで当社は独自にエネルギー解析ソフト「ENEPRO21」を開発、このソフトの有効利用で現状のエネルギー解析、省エネルギー・CO₂削減で貢献したいと考えています。梅田 確かにソーラ発電システムの発電効率はトップクラスなのに、普及は充分ではないですね。地球環境問題を国家的問題と認識し、環境保全意識が市民レベルまで浸透しているドイツなどと比べると大きな開きがあり、先般の「北海道洞爺湖サミット」で環境問題への各国の取り組みが確認され、日本は率先して地球温暖化を止める役割を担ったのに具体的な策が講じられていません。小川 日本は単体機械の性能や製造設備の効率化ばかりに目がいき、エネルギー全体を総合的に評価するという視点が少し欠けていたと思います。しかし地球温暖化への対応が必要とされる以上、今までと同じような流れでは解決できません。各企業の経営者、エネルギー技術者、運転員の方々が「自分達の熱源設備のどこに無駄があるのか」「一層の省エネ・CO₂削減を可能するには」を真剣に考え、エネルギーとCO₂削減の可能性を定量的に捉えて「見える」形にして具体的に達成する必要があります。個々の会社の環境に対する意識を高めると共に、各企業の枠を超えて真のエネルギーのベストミックス、利用されずに放置されたエネルギーの有効活用及び広くエネルギーを総合的に活用できる社会ネットワークをつくることですね。梅田 省エネを実行できる社会にするためには日本はどのように変わり、何をしなければならぬのでしょうか、そこに御社はどのように関わっていかれるのですか。

小川 まずエネルギーのプロフェッショナルであり、それをプロデュースする「ENEPRO21」を開発。このソフトはエネルギーシミュレータであり、現状のエネルギーシステムを正確に分析し、省エネ・CO₂削減を多面的に検討、「見える」《分かる》《実感する》《できる》画期的なツールです。これを当社のコンサルツールとして使うだけでは社会全体で自主的に地球温暖化対策を進められません。エネルギーの専門家に特化していた省エネ・CO₂削減検討を、エネルギーに関係するごなたにもできるように、利用しやすい充実したデータベースの構築と容易で、迅速で、分かりやすく、なおかつご利用者が更なる省エネコンサルを展開できるサポートシステムを構築しましたので「ENEPRO21 The Regain」のライセンス供与を開始し、将来は海外にもネットワークを広げていきたいと考えています。梅田 反応はいかがですか。小川 日本ではまだまだ省エネコンサルの評価は低く、こうしたソフトによる検討は無料という認識が強いのですが、今秋に予定されているCO₂取引市場の開設や東京都の規制の方向を定めた基本計画、中短期の目標値の明記により、多面的な検討で正確かつ定量的にCO₂の削減をとる認識が徐々に浸透し、設計会社、エスコ会社、ビル管理会社、エネルギー会社で「ENEPRO21」を役立てようという企業も増えていきます。自分達のビル、工場の熱電設備がどのように運

①INFORMATION

エネルギー解析ソフト「ENEPRO21」



転されエネルギーが消費されているか、どんなステップで管理すればCO₂削減が図れるのか関心を高めています。当社のソフトはそれをしっかり検証できますので、ニーズは拡大すると期待しています。梅田 これからの普及が楽しみです。小川 省エネ・CO₂削減は継続が必要ですし、押し付けでは地球環境問題の解決になりません。今まで通りビル、工場の省エネルギーを一層進めると共に熱源設備の最適運用で効率化させ、また、エネルギーの評価範囲を拡大し、図のように「国・自治体」「大学・研究機関」「業界団体」「企業グループ」「地域」を連携し、創発的にCO₂を削減するネットワーク社会をつくることで、東京都の掲げる「二〇二〇年に東京で二十五%のCO₂削減」、更に日本が提唱した「二〇五〇年にCO₂、五十%削減」に繋がります。名実共に省エネ立国となります。このようなネットワークで利用しやすく、正確な「ENEPRO21」の開発を更に進め、会社としても飛躍したいと願っています。梅田 今年は大きなステップの年になりそうですね。今後に期待します。